

2014 年度

地理学野外実習報告書Ⅶ



HACHINOHE

平成 28 年 3 月

信州大学教育学部自然地理学研究室

まえがき

2014年度の地理学野外実習は、2014年9月22~27日までの5泊6日の日程で実施した。前半の2日間は巡検、その後の4日間に調査実習を行なった。昨年度、調査日を従前に比べ1日長い4日間としたことで充実した実習となったことから、本実習でも踏襲した。

参加者は、清水、池田、山崎、中沢、飯田、小倉、坂本、鈴木、中村、水谷、米原の学生11名と、引率の廣内先生を合わせた12名であった。昨年度に引き続き、自然地理学研究室以外の学生や研究室配属前の2年次生がこの野外実習に参加している。

新幹線や鉄道各線を乗り継ぎ現地を目指し、9月22日午前10時にJR盛岡駅に集合した。初日の巡検では、岩鑄鉄器、風隙、龍泉洞、浄土ヶ浜を観察し、ホテル近江屋で一泊した。2日目は、田老津波防波堤、たろう観光ホテル、熊野鼻展望台、平井賀漁港（宮古層群）、小袖海岸、海女センター、久慈駅、久慈琥珀博物館、宿戸ウニの養殖場、種差海岸、テフラ露頭を観察するコースであった。2日間とも天気に恵まれ充実した巡検となった。

巡検最終日である23日の夜は、江戸時代後期、天保の大飢饉の頃に八戸藩内で生まれたとされる伝統的郷土料理「せんべい汁」を食し、明日からの調査実習へ向け英気を養った。

調査実習の拠点は、八戸市で、柏木旅館に宿をお世話になった。24日からは各自が事前に決定し、準備を進めてきたテーマに沿って各々の調査を実施した。調査は活断層、海成段丘、堆積環境といった自然地理学分野から、農業、鉱業、商業といった人文地理学分野まで、様々なテーマに取り組んだ。

学生は個人調査に先立ち、事前に資料収集や予察分析を行い、現地では踏査および掘削調査、聞き取り調査等を行いデータの収集に務めた。調査は時に単独で、時に先輩後輩一緒になって行った。先輩は後輩に技術を継承し、逆に先輩諸氏は、後輩の固定観念を排した新しい着眼点や発想に気付かされた。

また、実習前に3回の事前指導、実習終了後は3回の事後指導会が開かれ、廣内先生の丁寧なご指導の下、皆忙しいなか合間をぬって調査準備や分析、まとめを行った。本報告書はその成果をまとめたものである。懸命にデータに向き合った学生の努力の結晶をご覧いただけたら幸甚である。

最後に、調査にあたってお忙しい中、地図や資料の収集、聞き取り調査に御協力頂いた行政機関、団体、地域の皆様、会社や個人の方々に心から御礼申し上げます、ここに感謝の意を表します。

平成28年2月22日

清水龍来（信州大学自然地理学研究室 OB）

2014 年度地理学野外実習報告書Ⅶ

八戸

【目次】

まえがき

青森県南部町における折爪断層の活動性と平均変位速度分布 1

池田一貴

海成段丘における完新世段丘と更新世段丘との隆起量の比較 6

中村俊幸

上北平野南部における沖積層の堆積環境 14

坂本絵梨

八戸市・おいらせ町のやませの歴史と現在 23

米原和哉

八戸における石灰鉱山とセメント産業 34

鈴木理恵

八戸屋台村「みろく横丁」の設立経緯と実態について 40

水谷光太郎

青森県八戸市におけるイタコの実態と観光資源としての活用事例 47

山崎福太郎

あとがき